

2020 年度第3四半期

業務達成状況報告書

(添付書類)

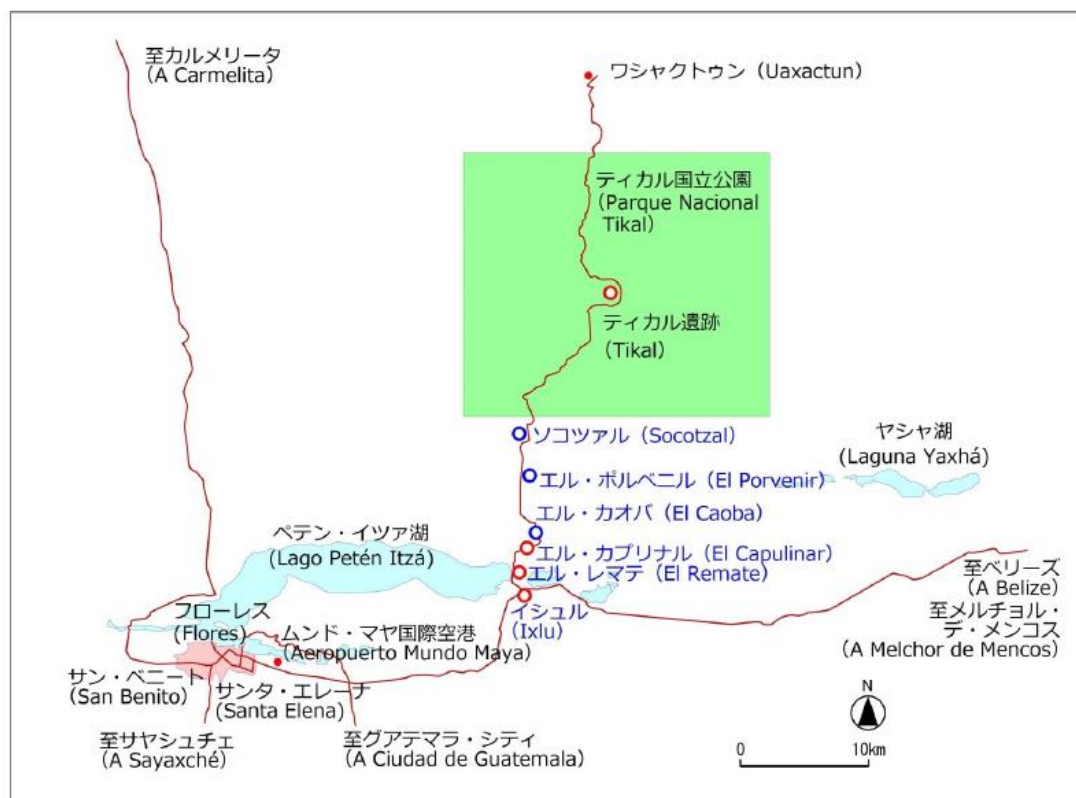
金沢大学

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト
草の根技術協力事業(パートナー型)

今期の主な活動

1. 新型コロナウイルス感染症に関する現地の情報共有
2. プロジェクト関係者とのウェブ会議
3. オンライン研修（バイオセキュリティについて）
4. オンライン研修（テレワークについて-2回目）
5. オンライン研修（起業について）
6. オンライン研修（マーケティングについて）

活動地域図



(グアテマラ共和国ペテン県フローレス市)

1. 新型コロナウイルス感染症に関する現地の情報共有

実施の背景

本プロジェクトは、ティカル国立公園の周辺コミュニティの住民の生活の質を向上させ、世界遺産を活用することについて意識向上を行うこと、さらに活動を長期的に持続して行うため、住民が政府・自治体等の関連機関と連携した活動を行うことを目的としている。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、プロジェクトメンバーが現地で活動を行うことが困難な状況に陥った。

そこで4月から12月にかけて、現地での新型コロナウイルス感染症の影響による実態を探るため、本プロジェクトの業務従事者（プロジェクトマネージャー補佐）であるグアテマラシティ在住のミゲル・エチェベリアと、業務補助員（プログラムコーディネータ）であるプロジェクト対象地域フローレス在住のイングリ・モラレス氏によって、現地状況の報告・共有が行われた。

成果、課題、今後の計画

ミゲル・エチェベリア氏がグアテマラ全体とグアテマラシティでの状況を報告し、イングリ・モラレス氏がプロジェクト対象地域のフローレス市での状況を報告することで、プロジェクトのメンバー全員が新型コロナウイルス感染症の流行による影響について把握することができた。プロジェクト対象地域での感染者の発生や、ティカル国立公園の管理維持のための対策、また、パンデミックに伴うグアテマラの政情を確認した。

現在でも感染者の発生が続いており、現地へ国内のプロジェクトメンバーが渡航することが困難な以上、この活動を継続する必要がある。今後も新型コロナウイルス感染症に関する現地状況についての報告が共有される。

2. プロジェクト関係者とのウェブ会議

実施の背景

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、それぞれの地域の状況や所属する機関の情報を確認し、今後の活動について話し合いを行うためプロジェクト関係者による会議が行われた。

日時

2020年 9月30日	19:00-20:00 (日本時間)	2020年10月 1日	10:00-11:00)
2020年10月20日	19:00-20:00 (日本時間)	2020年10月21日	10:00-11:00)
2020年11月 5日	19:00-20:00 (日本時間)	2020年11月 6日	10:00-11:00)
2020年11月25日	19:00-20:00 (日本時間)	2020年11月26日	10:00-11:00)
2020年12月11日	19:00-20:00 (日本時間)	2020年12月12日	10:00-11:00)
2020年12月21日	18:00-19:00 (日本時間)	2020年12月22日	9:00-10:00)

参加者

金沢大学ティカル草の根プロジェクト

プロジェクトマネージャー 中村誠一

プロジェクトマネージャー補佐 ミゲル・エチェベリア

プログラムコーディネーター イングリ・モラレス

現地業務補助員 佐藤陽一氏

国内調整員 緒方理彩

現地協力員 小川雅洋

金沢大学 学生 山崎珠代

成果、課題、今後の計画

それぞれ居住している地域の、新型コロナウイルス感染症の影響の状況とプロジェクトの活動への影響、グアテマラの政治の状況、災害の状況について確認を行うことができた。また、第三国研修の候補地であるホンジュラスの現状も報告され、状況の確認が行われている。

オンライン研修の進捗状況や、今後の計画についても共有された。オンライン研修の際の通信環境が問題となっていたが、この会議で解決案が協議され、研修を効果的に行うた

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト

めタブレットが導入され、配布されている。

また、現在のプロジェクト対象地域の状況や、JICA草の根技術協力プロジェクト活動について幅広く知ってもらうため、オブザーバーとして金沢大学の学生も参加した。

プロジェクトのメンバーの間で現地の状況や、オンライン研修について確認を行うため今後も月に2回実施される予定である。

3. オンライン研修(バイオセキュリティについて)

実施の背景

新型インフルエンザのパンデミックはプロジェクト実施対象地域のコミュニティにも影響を与えており、コミュニティに多い小企業においても営業を行うためにはバイオセキュリティの知識とプロトコルへの対応が要求される。この分野での研修の実施を企画して講師を探していたときに、2018年度の本邦研修に参加した INTECAP(グアテマラ職業訓練校)職員に相談したところ、ウェビナー形式での研修を実施できるという話になり、連携して研修を実施することになった。

研修の期間と方法

研修は、9月14日～10月7日にかけて、1回2時間×10回実施された。
(実施日：9月14日、16日、18日、21日、23日、25日、28日、30日、10月6日、7日)

INTECAPの用意したMicrosoft Teamsのシステムを利用して実施された。

講師

ロウルデス・マリア・ラミレス・オバジェ(Lourdes María Ramírez Ovalle)氏
(化学工学学士、ISO9001品質管理プロジェクトアシスタント)

研修参加者

参加登録:20人、研修修了者:15人

研修内容

テーマ1：バイオセキュリティ

- 一般的な原則
- 普遍性
- 障壁
- 生物感染性廃棄物の管理

テーマ2：プロトコル

- 自宅から職場への移動、またはその逆の移動のプロトコル
- 作業領域に入るためのプロトコル
- 従事者の清潔維持と衛生
- 個人の衛生管理の頻度
- 個人用防護具(PPE: personal protective equipment)の正しい使用法、クリーニングと交換(マスク、グラスなど)

テーマ3：プロトコルの作成に関するガイドライン

- カスタマーサービスガイド/プロトコル(カフェテリア、ショップ、マーケットなど)

- プロバイダーサービスガイド/プロトコル
- サプライチェーンガイド/プロトコル
- 清掃と衛生管理の頻度ガイド/プロトコル

テーマ 4：安全な職場復帰

- 新しい通常への復帰のフェーズ
- 経済再活性化の要件
- 新しい通常について
- 事業運営の継続性

成果、課題への対応、今後の計画

新型コロナウイルスの感染が Peten 県に広がっているなかで、コミュニティの中小零細企業においてもバイオセキュリティへの対応が必要となる中で、タイムリーな内容の研修を実施することができた。

今後も状況を見極めながら各種の研修を企画してゆきたい。

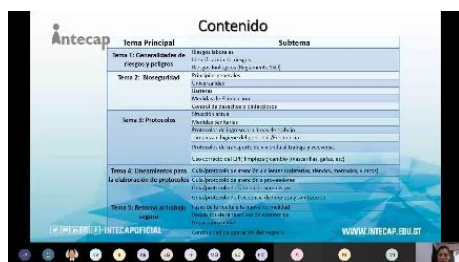
研修の様子



研修のスクリーンショット(1)



スクリーンショット(2)



スクリーンショット(3)



スクリーンショット(4)

4. オンライン研修(テレワークについて-2 回目)

実施の背景

7 月～8 月にかけて同じテーマの研修を実施したが、アンケートを実施したところ研修の時刻や曜日が学校や仕事の時間と重なっていて受講できなかったという意見が見られたため、もう一度同じ内容の研修を計画した。

研修の目的

「テレワークとは何かと使用されるツールについて」をテーマとして、Covid-19 への対策として各地で利用されるようになっているテレワークの意味や方法、使われるツールについての研修を実施した。

研修は、Zoom のシステムを利用して実施された。

講師

アレクサンデル・ウリサル氏(考古学者、パブリック考古学、プロジェクト前業務従事者)

研修参加者

参加登録:18 人、研修修了者:6 人

研修内容

オリエンテーション 1 回、講義 10 回、発表 1 回の 12 回×1 時間で企画した。
発表(プレゼンテーション)に関しては参加者の都合で 2 回に分けて行った。

日付	内容
10 月 14 日	オリエンテーション
10 月 16 日	テレワークの概要、歴史、長所と短所
10 月 19 日	テレワークで使用されるツールについて(1) ディスカッション
10 月 21 日	テレワークで使用されるツールについて(2) ディスカッション
10 月 23 日	テレワークで使用されるツールについて(3) ディスカッション
10 月 26 日	テレワークで使用されるツールについて(4) ディスカッション

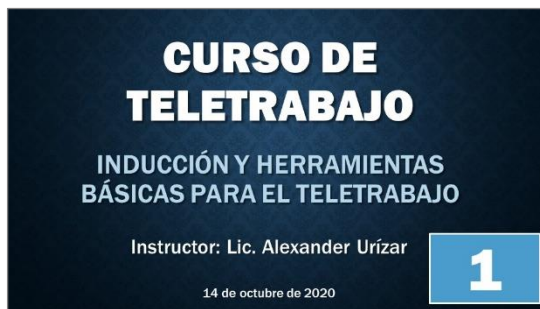
ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト

日付	内容
10月28日	テレワークで使用されるツールについて(5) ディスカッション
10月30日	テレワークで使用されるツールについて(6) ディスカッション
11月2日	テレワークで使用されるツールについて(7) ディスカッション
11月4日	テレワークで使用されるツールについて(8) 参加者が行うツールに関してのプレゼンテーションの説明
11月9日	これまでの復讐と重要なポイントの説明
11月11日	プレゼンテーション(1)
11月13日	プレゼンテーション(2)

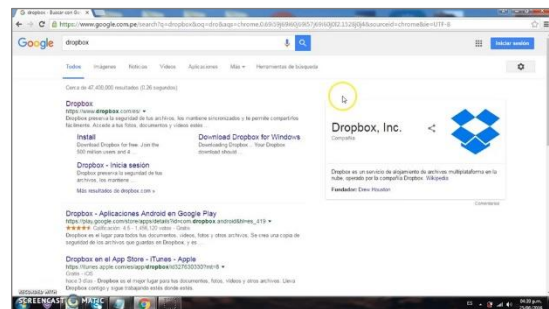
成果、課題への対応、今後の計画

受講登録のみ行って、1～2回で放棄してしまう受講者が多いのは前回同様であったが、継続して受講する人はとても熱心であり、今回は6人の修了者を得ることができた。今回もネット環境が悪いことに悩まされた。参加者の中にはZoomに参加できなかったり、参加できても接続が切れてしまったり、途中で音声途切れたり不安定な場合が多かった。このテーマでは2回実施したため、今後は別のテーマでの研修を行えないか検討することになっている。

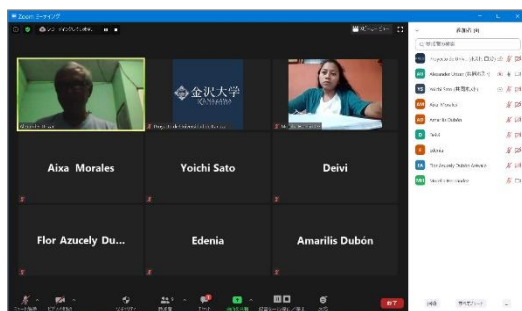
研修の様子



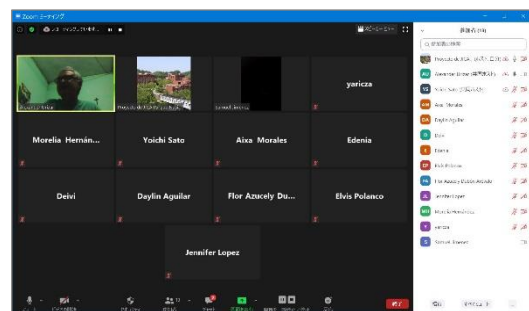
Zoom による研修のスクリーンショット(1)



Zoom による研修のスクリーンショット(2)



Zoom による研修のスクリーンショット(3)



Zoom による研修のスクリーンショット(4)



受講者のプレゼンテーション(1)



受講者のプレゼンテーション(2)

5. オンライン研修(起業について)

実施の背景

コミュニティでは就業の機会が少なく、また、フローレスなどの都市に出ても若者が就職できる仕事を見つけるのは難しい状況にある。コミュニティ在住のこれから社会に出るレベルの学生を対象に、起業して自分で仕事を始めるとはどういうことか理解してもらうのは重要であるため研修を企画した。

研修の期間と方法

研修は、10月14日～12月17日にかけて、1回1.5時間×16回実施された。

実施日:

10月14日、19日、22日、26日、29日

11月2日、5日、12日、16日、23日、30日

12月3日、8日、10日、15日、17日

講師

Tink Point というグアテマラシティで研修活動を行なうグループの講師

研修参加者

参加登録:14人、研修修了者:4人

研修内容

自分のアイデアを変化させて起業につなげるための基礎知識を得るための研修をテーマごとに8つのワークショップの形で行う。

1. 必要性の識別(講師: Meyre Contreras)
受講者がコミュニティにおいて衣食住、健康、安全、教育、就職、交通、レクリエーションなどそれぞれの必要性を確認したうえで、それを解決するしてコミュニティに変化をもたらすにはどのようなアイデアを考えているかを認識する。
2. 起業(講師: Erwin Juárez)
企業家精神を涵養するための基礎的な知識を得る。起業のタイプ、起業して成功した人のアイデアや生活スタイルなどについて話し合う。起業した経験やこれから行いたいプロジェクトを持つ受講者を確認する。
3. 業務の管理(講師: Erwin Juárez)
事業のプロセスごとの管理業務の説明。基本的なツールを使って、受講者の様々なアイデアを表現する実習、Canvasのモデルを使用することで起業を視覚化して表現できることを学ぶ。このようにしてコミュニティが別の機関から支援を受けられる道を探ることが可能になる。

4. 人事(講師: Betzabé Juárez)
計画、組織化、指示と仕事のコントロールについて学ぶ。多くの中小零細企業ではこの分野は軽視されがちだが、このワークショップでは、良好な人間関係が企業やコミュニティでの生産性を向上させて良い結果をもたらすことを学んだ。
5. 生産の機能(講師: Erwin Juárez)
様々な製品の生産やサービスの提供において付加価値をもたらす生産について学ぶ。生産過程のそれぞれの要素ごとのコストを認識することが需要であり、それが正しい生産管理ということができる。
6. マーケティングの機能(講師: Ana Juárez)
マーケティングにおける要素の定義と起業の成功のためのマーケティングの重要性について学習。マーケティング計画について説明し、受講者はそれぞれのプロジェクトについてコメントした。受講者にマーケティング計画をプレゼンテーションする宿題を課し、研修の評価に使用した。
7. デジタルマーケティングの基礎(講師: Ana Juárez)
自社の製品やサービスを知ってもらうためのツールについて学んだ。インターネット上でマーケティングに使用されている各種ツールの長所・短所、適切なツールの選択法。
8. 販売(講師: Erwin Juárez)
製品やサービスを事業として行うために重要な販売のプロセスの定義について学ぶ。受講者の希望により、価格決定の要素の分析を実施。またこれらの要素がマーケティングとどうかかわるのかを分析。
9. まとめ、プロジェクトの評価(Tink Pointの講師全員)
これまでの研修のまとめとして、それぞれのワークショップでの疑問点の解消を行った。また、受講者は各自のプロジェクトのマーケティングとcanvasでの説明のプレゼンテーションを行った。

成果、課題への対応、今後の計画

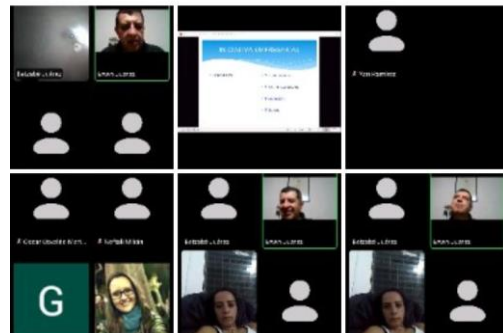
まだ社会経験のない人たちを対象として研修内容は充実していたと考えるが、研修を継続して受講した人が少なかった。これは若年層向けのテレワーク研修のときにも経験したが、参加登録した人のうち多くは最初の数回で止めてしまうことが多い。ただ、残って続けている人たちは非常に熱心である。止めてしまうケースは内容が合わないなどのほか、別の仕事に就いたとか学校の試験と重なって時間が取れないなどさまざまな理由がある。そのため、もう一度同じ内容の研修を実施して、今回受講できなかった人たちにも機会を与えて、そのあとで修了者をまとめて第2フェーズの内容の研修につなげる予定である。

研修の様子

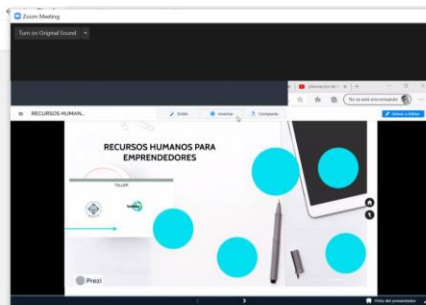


研修のスクリーンショット(1)

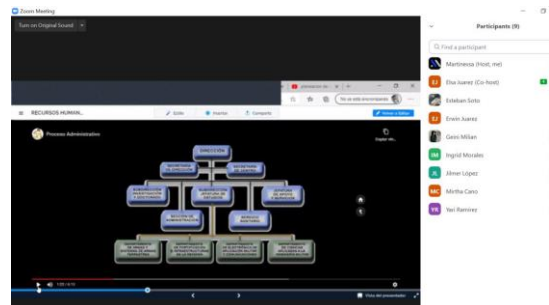
Jue., 22 oct.



スクリーンショット(2)



スクリーンショット(3)



スクリーンショット(4)



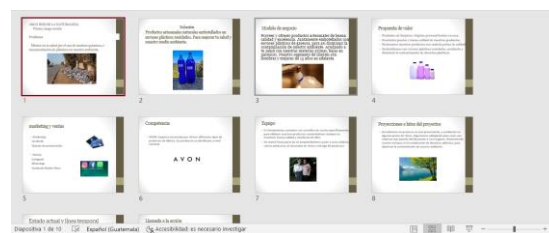
受講者の作成したプロジェクト(1)



受講者の作成したプロジェクト(2)



受講者の作成したプロジェクト(3)



受講者の作成したプロジェクト(4)

6. オンライン研修(マーケティングについて)

実施の背景

コミュニティ内では木工工芸品、衣料品や食品などを製造販売している人たちが存在している。これまでにそのような分野では初心者向けに基礎的な製作の研修を実施してきたが、すでに生業としているレベルの人たちへの研修は実施できていなかった。そこで、2018 年度の本邦研修に参加した INTECAP (グアテマラ職業訓練校) 職員に相談し INTECAP と連携して売り上げを伸ばすことを考えるための研修を実施することになった。

研修の期間と方法

研修は、11 月 16 日～12 月 7 日にかけて、1 回 2 時間×10 回実施された。INTECAP の用意した Microsoft Teams のシステムを利用して実施された。

講師

ファビオラ・マリソル・フローレス・ガルシア (Fabiola Marisol Flores García) 氏

研修参加者

参加登録:20 人、研修修了者:18 人

研修内容

A. 職人のためのマーケティング

1. 自分自身を知り、識別する

- 自分の製品、その市場、自分自身の現状
- 企業家としての自分
- 安住の地から出る

2. マーケティングの基礎

- イノベーション(製品と自分自身の)
- マーケティング計画(ブランドのポジショニング、価格戦略、市場調査、プロモーション・広告の計画)
- ビジネスプラン

B. パッケージデザイン基礎

- 内容物
- デザイン(創造性、色とフォントの使用)
- 材質
- 耐久性と製品の保存性
- 価格

成果、課題への対応、今後の計画

木工工芸品や被服、食品などを実際に生産販売しているコミュニティ住民を対象に行ったが、受講者募集の段階では内容が理解されず受講者を募るのに苦労した。また、この研修は受講者の年齢層が高いことからITリテラシーの面での心配や研修受講に適切な端末(スマートフォンやPC)を所持していないなどが課題となった。最初のうちはスマートフォンを持っている人のところへ集まって受講するような実態があったが、このようなケースではタブレット端末の貸し出しが有効に機能した。

研修が始まってみれば受講者の生業と直接かかわるテーマであることから非常に学習意欲が高く、有意義な研修となった。

今回は第1部であるが、引き続き第2部(テーマ:ネットでの販売)を実施する予定である。

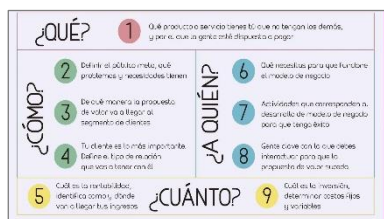
研修の様子



研修の資料(1)



研修の資料(2)



研修の資料(3)



研修の資料(4)



受講者の製品例(1)



受講者の製品例(2)



受講者の製品例(3)



受講者の製品例(4)